

編集後記

2012年4月に広報委員会が拡充されたのを契機に、途絶えていた診療年報を2011年度分から再開させ、今回は2刊目となります。京都医療センターが一丸となって作成にたずさわり、2011年度よりよいものを作ることが出来たと思っています。

新しくなった広報委員会が2012年度に行った大きなこととしては、この診療年報の復活の他に、当院の広報誌にあたる「京都医療センターだより」の充実が挙げられます。これまで、翌月の上旬に前の月の号が発行されていたのを、発行日を少しずつ前倒して、その月の頭にその月の号が発行されるようにしました。また、メッセージ性を高めるために患者さん向けと医療従事者向けで記事を分けるようにしました。さらに2102年12月号からは、表紙に写真を載せるようにしました。記念すべき最初の写真は、当院看護学校の戴帽式の幻想的な写真でした。当院ホームページの「京都医療センター広報誌」からもご覧いただけます。その他の2012年度の広報委員会の取り組みといえば、患者さん向けのクリスマスコンサートを保育所園児も含めた院内の他職種にわたるスタッフで盛大に開催したことです。特に看護学生のみなさんが熱心に取り組んでくれ、患者さんたちにも喜んでいただける楽しい会ができました。

さて、2012年度の診療年報に目を通していただき、いかがだったでしょうか。当院の外部の方、京都医療センターに大切な患者さんを紹介したいと思っていただけただけでしょうか？あるいは、京都医療センターで働きたいと思っていただけただけでしょうか？逆に叱咤激励いただける点がありますでしょうか？病院内の職員の方は、どうでしょう。隣の部門の仲間の刻苦勉励の足跡が見えたでしょうか？この病院の一員であることに誇りを持ってもらえたでしょうか？

この診療年報により、私たちの昨年一年間の活動を外部の皆様にお知らせいたしますが、病院内の皆様には、鏡に映った自分の姿を見るように、昨年の活動を今一度振り返っていただければ嬉しく思います。そのことが、明日の活動へのモチベーションにつながり、京都医療センターをますます発展させ、さらに地域医療に貢献する一助になれば甚だ幸いです。

2013年 広報委員会
瀬田公一
塚原徹也